

2020 年 1 月 30 日

2019 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科

修士課題研究

助産所助産師は女性をどのように支援しているのか

Care Provided within the Midwifery-Client Relationship
at Birth Centers

18MW004

喜井幸媛

論文要旨

研究目的：

助産所で行われる支援は高く評価され、これまでもその本質を探る研究が行われてきた。しかし、助産師の言葉でその支援を明らかにした研究は少ない。そこで本研究では助産所で提供されている支援を、助産師の語りを通して明らかにする。具体的には、助産所助産師の女性とのかかわりに焦点を当て、その支援がなぜそのように提供されているのか、支援の構造を探索し、記述することを目的とする。

研究方法：

質的記述的研究である。分娩を取り扱っている助産所2施設において、施設長である開業助産師2名に60分程度の半構造的インタビューを実施し、女性とかかわる際の助産師の態度や行動、それを支える思考のプロセスや、大事にしている信念についてデータを収集した。インタビュー内容を質的記述的に分析し、支援のあり様を、支援のベースとなる信念と関連させながら記述した。なお、本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の審査を得て実施した。(承認番号：19-A064)

結果：

Aさんの支援は、女性が「私はどうしたいか」を自分に問い、自分の固有の希望を言語化することを促す支援であり、自己決定を促す支援であった。出産がどのようなものとなろうとも、自分で選択して決めた結果は、肯定的に受け止めることができる。また、自分で決定し、行動することは、女性の自信にも繋がる。さらにAさんは、助産所での出産に固執せず、その女性にとってのいいお産を支援する。これらにより、女性が自分の出産に満足し、成長を感じることが、Aさんの支援のゴールとして語られた。

Bさんの支援には、支援の先に、女性の自律を見据えたかかわりがあった。妊娠が正常に経過するためのセルフケアや、産後の育児に向かう態度、これらに女性の主体性が芽生え、自ら行動するようになるのは、女性が助産師に安心できる関係性が築かれて、それからである。助産師に対する安心は、専門職としての確かな技術の提供、相手のニーズに応じ、しなやかに応答する姿勢からもたらされていることが見出された。自分が大事にされる経験は他者を大事にすることに繋がる、そうして女性の成長を見守る支援が語られた。

結論：

助産所助産師の支援として、2人の支援のあり様は異なるものであるが、妊娠・出産という時期に女性が成長する存在であると信頼し、自律を支えることが未来につながるという展望をもち、支援を提供する姿勢には共通性が見いだされた。こうした支援の提供のために、後続する助産師は、信念をもち、専門職者として自律する意識を持つこと、自分の行動や判断に責任を持ちかわること、そして、相手との相互性を尊重し豊かにケアを展開する姿勢が重要であると示唆された。